



3日(月)に、名向小学校5年生が、真珠の核入れに挑戦しました。今回も、小パール隊と油壺マリンパークの協力で行いました。小学生には、かなり難しい作業ですが、指導者の皆さんに教わりながら、挑戦しました。子どもたちは、緊張しながらも、集中して取り組みました。

今回、核入れしたアコヤガイは、小網代湾に戻され、そこで成長し、来年の4月ごろ、6年生になった子どもたち自身の手で浜揚げ(真珠の取り出し)されます。

初声中学校の海洋学習系の生徒が、(株)リバネス主催の「マリンチャレンジプログラム 2017年度 認定研究」に選定されました。右の写真は、認定証を手にした初声中の2年生です。

研究テーマは、「三浦の海の生物種の変化」です。今後、月1回web面接が行われ、8月9日に中間報告会が行われるそうです。



海洋教育体験記その2

南下浦小学校 橋口ゆい

みなさんは、身近な海岸の地形や潮の流れ、生き物を詳しく説明できますか。1年程前の私は、残念ながら出来ませんでした。しかし、昨年度、3年生と共に『高抜海岸研究所』と称し、1年かけて調べる中で、“身近な海のこと”が分かるようになってきました。

子どもたちは海がとても好きです。ところが、いざ、潮だまりへ出かけて観察しても「見たことある、けど、名前は分からない」「生き物かどうか分からない」というものが多くあり、「意外と知らない」ということに気づきました。そこで、生き物に詳しい山田陽治先生をお呼びして、生き物の見つけ方や観察の方法を教えてくださいました。「ぼくたちの海には、生き物がたくさんいる!」と、本物と図鑑とを見比べながら、イラストを交えて分かりやすくまとめていきました。その後、生き物が住む環境について興味を上げた子どもたちは、かながわ海岸美化財団の小川さんをお招きして「海岸ゴミ」について話を伺いました。ゴミがどこからやってくるのかわかって、とても驚いていました。「自分たちの海をもっとよくするためには、自分たちが行動している姿を見てもらうことが大切」という話し合いに発展しました。これまでに分かったことをパワーポイントでまとめ、他校の先生方やお世話になった山田先生、小川さんにプレゼンテーションをしました。

印象的だったのが、総合の最後の時間。「残りの時間で何をしたいか」を話しあったところ、「海岸掃除をしたい」との声が。南下浦小学校では、全校で海岸へ出かけて、春と秋の2回、海岸清掃を行っていますが、いつもよりも「生き物の住む海岸を綺麗に大切にしたい」という願いを込めて実践することができました。今年、4年生になった子どもたちは、高抜海岸の海水を使って「塩づくり」について調査中です。

海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで (046-854-9443)